

ランビーノ パラガス 教授
LAMBINO, John Paragas

経済学部 経済学科

■ 研究業績等

【著書】

- ・著書『Asian Studies, Volume 1』
Amsterdam University Press（共著）：2022/06
- ・著書『アジアからの戦略的思考と新地政学』芙蓉書房（共著）：2015/10
- ・著書『Food Security and Food Safety for the Twenty-first Century』Springer（共著）：2015

【論文】

- ・学術論文「フィリピンとベトナムにおける国内再投資力の比較 ― 経常収支および企業の投入要素を中心に ―」
経済論叢 193(2):127-156（単著）：2019/04
- ・学術論文「モダニティにおける『時間的一特性』についての一考察 ― 現在主義の超克に向けて ―」
京都橘大学大学院文化政策学研究科研究論集 (13):17-48（単著）：2019/03
- ・学術論文「フィリピン経済の国内再投資力―投入財の視点における中小企業と大企業の違いを中心に―」
京都橘大学大学院文化政策学研究科研究論集 (12号):5-26（単著）：2018/03

【学会発表】

- ・Nomadism of public space dwellers in Metro Manila, the Philippines: On their home, mobility, and survival (Neighborhood Transformation in East Asian Cities: Is "Gentrification" the Right Frame of Reference) : 2022/05/16
- ・Economic Twins but Not Identical: A comparison of the economic structures of the Philippines and Vietnam (The 12th International Convention of Asia Scholars/ Engaging with Vietnam 12) : 2021/08/24
- ・地域経済学からみる人間の移動性：フィリピンの事例を中心に : 2020/01/15

キーワード

人間移動 労働力移動 移民 出稼ぎ

対応可能なもの ■講演 □研修 □研究相談(学術指導) □学術調査 ■コメンテーター ■共同研究・受託研究

移動する人間の生活

研究の概要

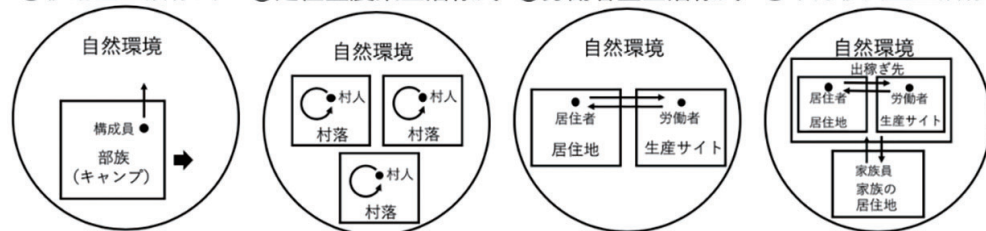
本研究では、人間移動に関する理論を発展させるために、人類社会の歴史を分析検討することで、理論を再構築するという方法論を採用しました。さらに既存の理論と比較検討した上で、自らの新しい分析フレームを示しました。

具体的には、岡田知弘氏の地域論をベースにしなが、人間移動に関する理論的枠組みを発展させました。岡田氏は「地域」を「人間の生活の場」と指摘しており、その構成要素である「人間」「生活」「場」をより詳細に分析することで、人間移動に関する理論的枠組みを発展させると考えました。加えて、「人間」を個人として捉えるだけでなく、「人類の一員」として存在していることを指摘しました。

また、「生活」は存在のプロセスであると見なしつつ、人間の生活には地域性があることを指摘しました。さらに、生活を、①経済的な生産（物質的・精神的な条件を満たす手段の入手）、②個人としての再生産（個人の生命力の回復）、③人類としての再生産（人類の繁殖）という、三つに分類しうことを示しました。

これを踏まえて、人類社会の歴史を検討した結果、人類の生活様式が主要な四つのカテゴリーに分類可能であることを明らかにしました。すなわち、①移動型生活様式、②定住型農業生活様式、③労働者型生活様式、④単身移民型生活様式です（下図参照）。

①移動型生活様式 ②定住型農業生活様式 ③労働者型生活様式 ④単身移民型生活様式



研究の詳細

□研究・技術のプロセス □研究事例 ■研究成果 ■使用用途・応用例 □今後の展開

移動型生活様式においては、人間は部族単位で、半永久的または永久的なキャンプを構成します。狩猟採集可能な食料の変動に伴い、部族はキャンプを移動しますが、部族の構成員たちもキャンプを離れて、植物や獲物などの食料を探し回ります。キャンプは狩猟採集後に個人の体力を取り戻すために機能しており、キャンプまたはその付近では、出産や育児も行われます。すなわち、個人や部族の再生産はキャンプまたはその付近で行われており、経済的生産はキャンプから外部に広がった自然環境において行われています。

定住型農業生活様式においては、食料供給、生命力の回復と人間の繁殖は同じ村落で行われています。農作業、休息、食事、育児やコミュニティづくりなど異なった諸相が同じ場で行われます。

労働者型生活様式では、居住地域においては労働者の生命力の回復、生殖および育児が行われ、工場などの生産サイトでは賃金という生活手段が獲得されます。

単身移民型生活様式においては、出稼ぎ労働者は生活の糧の手段を獲得するために、都市部や外国に移動します。自分の家族やコミュニティは残して出稼ぎに行くため、家族の再生産は居住地で行われ、出稼ぎ先では居住地と生産サイトとの行き来が発生します。

産学官連携先に向けた
アピールポイント

・社会構造について示唆を提供

ご連絡窓口

京都橘大学リエゾンオフィス（学術振興課） TEL : 075-574-4186 E-mail : aca-ext@tachibana-u.ac.jp